



綾循MSWだより



高齢期の住まいには多様な選択肢があります。
あなたは毎日の暮らしや人生の最終章に何を求めますか。
今回は様々な住まいの種類をご紹介します。



民間施設1

有料老人ホーム

高齢者が暮らしやすいように配慮された「住まい」で、食事サービス、介護サービス、家事援助、健康管理のいずれかが受けられる。

サービス付き高齢者住宅

安否確認と生活相談サービスが義務。

民間施設2

認知症対応型共同生活介護グループホーム

認知症の方が自立的な共同生活をするための施設。各人の能力に応じて家事も分担。

ケアハウス(軽費老人ホーム)

比較的安価で自立生活できることが入居条件。

公的施設

特別養護老人ホーム(特養)

要介護度が高く、経済的にも在宅介護が困難な人が優先的に入居できる。

介護老人保健施設(老健)

身体機能の回復を目標にリハビリなどを受け、在宅への復帰を目指す。入所期間の目安は3ヶ月～6ヶ月。

療養病床(病院)、 介護医療院

長期療養を必要とする人が、機能訓練や必要な治療を受ける。医療ケアに重点を置く。

住まい選びフローチャート



START

現時点で介護が必要

はい

いいえ

現在、医療サポートが必要

将来的な不安が大きい

はい

いいえ

はい

いいえ

医療サポートの必要性は？

認知症は？

より重視するのは？

高い

低い

重い

軽い

生活支援

住宅

療養病床・介護医療院

有料老人ホーム

サービス付き高齢者住宅

介護老人保健施設

自宅

有料老人ホーム

特別養護老人ホーム

有料老人ホーム

サービス付き高齢者住宅

グループホーム

有料老人ホーム

サービス付き高齢者住宅

ケアハウス

サービス付き高齢者住宅

自宅

医療サポートが必要でも認知症状があっても・・・家族のサポート次第では自宅で生活することは可能です。2013年の調査によると「最期を迎えたい場所」に対して、7割の人が「自宅」と答えました。しかし実際には自宅で最期を迎える人は1割ほどなのです。

人生の最期に過ごしたい場所について、できるだけ健康なうちに家族で話しあっておくのも良いかもしれませんね。次回の綾循MSWだよりでは、訪問診療について話をしていこうと思います。

